１年　国語科学習指導案

授業者　大阪市立中津小学校　佐藤　圭佑

１　日　　時　　令和７年１１月１１日（火）第５校時（13：５０～14：35）
２　学年・組　　第１学年２組（在籍２４名）
３　単　元　名　「お話のすきなところを声に出して読もう」
（森山京「おとうとねずみチロ」東京書籍１年下）

４　単元目標

（１）　選んだ場面の叙述を基に、チロの様子に合った声の大きさ、速さ、強さになるように気を付けながら音読することができる。〔知識及び技能〕（１)ク

（２）　叙述を基に、チロが言った言葉について、どのような表情、口調、様子で言ったのか、チロがしたことについて、どのような思いでそんなことをしたのかを考え、言葉や文で表すことができる。〔思考力、判断力、表現力等〕◎C(１)エ

（３）「チロごっこ発表会」で、好きな場面を選んでチロの様子が伝わるように気を付けながら音読し、なぜその場面を選んだのかを伝え合ったり、友達の読み方や考えのよいところを見付けたりすることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕◎C(１)カ

（４）言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

５　単元間の関連と系統

前単元（１年９月）	本単元（１年１１月）	次単元（１年１月）
学習材 「かいがら」 人物の行動を想像しながら読み、内容や感想を伝えあったり演じたりする	学習材 「おとうとねずみ　チロ」 人物の様子を思い浮かべながら読み、好きな場面を選んで人物の様子に合った読み方を考え、音読することができる。	学習材 「スイミー」 人物の行動や様子を想像しながら読み、お話の好きなところを見つけて、理由とともに紹介することができる。

６　単元で取り上げる言語活動

「おとうとねずみチロ」を読み、好きな場面を選んで、チロの様子が伝わるように気を付けながら音読するという言語活動を設定する。この言語活動を行うためには、本文中からチロの言ったことやしたことを見付け、その叙述を基にチロの思いを想像し、ふさわしい読み方を考えることが必要となる。チロになりきる「チロごっこ」を通して、学習者は物語の世界に入り込み、楽しみながら読む際の声の大きさや速さ、表情などを工夫し、なぜそのように読むのかを叙述に基づいて言語化することができる。したがって、本単元の目標にふさわしい言語活動であると考えた。

（関連：〔思考力・判断力・表現力等〕C(２)ア）

７　評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
選んだ場面の叙述を基に、チロの様子に合った声の大きさ、速さ、強さになるように気を付けながら音読する	①「読むこと」において、叙述を基に、チロが言った言葉について、どのような表情、口調、様子で言ったのか、チロがしたことについて、どのような思	進んで、チロの様子が分かる言葉や文を見付け、学習の見通しをもって、お話の好きな場面を選び、チロの様子が伝わるような読み方

ことができている。((Ⅰ)ク)	いでそんなことをしたのかを考え、言葉や文で表すことができている。 （◎C（Ⅰ）エ） ②「チロごっこ発表会」で、好きな場面を選んでチロの様子が伝わるように気を付けながら音読し、なぜその場面を選んだのかを伝え合ったり、友達の読み方や考えのよいところを見付けたりすることができている。 （◎C(Ⅰ）カ）	を考えながら音読しようとしている。

８　指導にあたって

【児童観】

児童は、7月に「おおきなかぶ」、9月に「かいがら」、１０月に「サラダでげんき」の学習を行った。「おおきなかぶ」では、登場人物がかぶの種をまいた時や抜いている時の心内語を書いたり、グループに分かれ、動作化しながら音読を行ったりした。心内語を書く活動は初めてだったので、どのように書けばよいのか分からず、一言しか書くことができない児童がほとんどだった。そこで、「おじいさんはどんなことを言いながら種をまいているのかな。」「おじいさんはどんなことを言っておばあさんを呼んだのかな。」「おじいさんはどんなことを言いながらかぶを引っ張っているのかな。」と問いかけ、グループで動きながら自由に言わせた。児童はグループの友達と楽しみながら、場面に合った動きや表情をしたり、おじいさんの言葉を表現したりすることができた。

「かいがら」では、中心人物である「くまのこ」と自分自身とを重ね、うさぎの子と同じかいがらが好きだと分かった時のくまの子、かいがらをあげようか考えるくまの子、かいがらをうさぎの子に渡したくまの子になって、思いを書く活動を行った。くまの子の行動や会話の背景にある思いや考えにも気づいた児童がいる一方で、会話に書かれたうわべの言葉だけを捉え、その裏にある思いに気付けない児童も多かった。

「サラダでげんき」では、「動物たちは、りっちゃんにどんなことを教えたのだろう」という読みの課題を設定し、登場の仕方や話し方（口調）、サラダに入れるもの、それを入れる理由や効果などを比較する学習をした。場面ごとに出てくる動物がすすめる材料やその効果は、その動物ならではの特徴や特技が関係していることに気づき、お話の面白さを味わうことができた。登場してきた動物になりきってりっちゃんに教えたいことを書く活動では、自分の生活経験と結び付けながら教材文の台詞に付け足し、膨らませて書くことを楽しんでいた。そして、学習の最後にお話には登場しない動物になってりっちゃんに「おすすめカード」に書くという言語活動を行った。また、野菜を切る音や飛行機の音などの擬音語や動物たちの会話の音読も楽しむことができた。しかし一方で、自分の思いや考えを言葉で書き表すことが苦手な児童も多く、なかなか書き出せないでいる様子が見られた。いいなと思う友達の考えを真似して書いたり、ヘルプカードを見て書いたりさせ、少しでも書くことへの抵抗を減らし、自信につなげられるようにしている。

【単元観】

本単元では、様子を表す叙述をもとに、中心人物の行動を具体的に想像することがねらいである。また、人物の様子を思い浮かべながら、チロの会話文を中心にお話の好きなところを選んで音読する「チロごっこ」をするという言語活動を設定している。

本教材は、おばあちゃんからのチョッキを楽しみに待つ末っ子のねずみ「チロ」の様子や行動が中心に描かれている物語である。幼いチロがきょうだいねずみに「チロのはないよ」とからかわれ、むきになって一生懸命言い返したり、おばあちゃんに忘れられたかもしれないと本気で心配したり、やまびこを自分の声がとんでったと大喜びしたりする様子など、チロの行動や言葉は1年生の児童にとって共感しやすいと考える。また、「そと」「なん日かたって」「おかのてっぺんの木」など時や場所を表す言葉から場面展開が捉えやすい。そして、表情豊かに描かれているチロの挿絵も、様子や行動を具体的に想像することに効果的である。会話文も多く、「あわ

てていいかえす」「うれしがってとびはねる」「こえをはり上げて」「大きくロをあけて」「大ごえでさけぶ」「ゆっくり」など、チロがどのように言ったかが分かる叙述も多い。さらに、「とび出す」「かけのぼる」「じっと耳をすます」や「どんどん　どんどん」「だんだん　だんだん」など、チロの様子や心の移り変わりがわかりやすく表現されている。このように、児童は素直で純粋なチロに自身を重ね合わせ、様子を思い浮かべながら音読することに適した教材であると考える。

【指導観】

本単元において、中心人物であるチロのすきなところやお話のすきなところをチロになりきって音読することをねらいとしながら、チロの様子や行動を具体的に想像し、会話文の音読の工夫を考えることを指導する。

第一次では、まず単元の導入として、これまでに読み聞かせしてきた「おとうとねずみチロ」シリーズのお話の中から、指導者が好きな場面を選んで音読する。その際、なぜその場面を選んだのか、声の大きさや読む速さ、「チロの～という様子が分かるように、…　…の声で読みます。」「チロの～の気持ちが伝わるように…　…のように読みます。」など、音読の工夫を書いた「チロごっこカード」を提示して、児童の興味関心を高められるようにする。チロになりきって声に出して読む「チロごっこ」をするというめあてをもって教材文を読んでいくこと、学習の最後にペア学年である6年生にも音読を聞いてもらうことを知らせる。また、自分の音読のはじめと終わりを録音して聞き比べることも知らせ、学習への意欲を高められるようにする。次に、教材文の扉絵や挿絵から、どのようなお話なのかを想像させ、指導者の範読を聞く。その後、はじめの感想を書いて伝え合う。その際、「ほっとした」「どきどきした」「おもしろい」「やさしいな」などの言葉を「感想の言葉」として例示し、これらの言葉を用いると、自分の感想を相手に伝えやすくなることに気付かせたい。そして、挿絵を用いて出来事の順序を確かめたり、言葉の意味を捉えたりして、お話の大体をつかめるようにする。また、時や場所を表す言葉から場面分けもできるようにする。さらに、チロになりきるためには、チロの様子や気持ちを考えること、音読を工夫するためには、声の大きさや読む速さ、チロはどんな言い方をしているかを考えることが大切であることを伝える。チロが言った言葉には㋝を書き込み、チロの様子や気持ちが分かる言葉にはサイドラインを引かせるようにする。チロの様子がわかる言葉を見つけるためには、「チロは、」に続く地の文を手掛かりにすればよいことを指導する。そして、好きな場面の音読をタブレットに録音させる。単元の最後に読んだ音読と比較して、自分の成長を感じることができるようにしたい。

第二次では、おばあちゃんから手紙が届いた場面、おばあちゃんに声を届ける場面、おばあちゃんからチョッキが届いた場面のチロの様子や行動、会話文に着目し、チロの気持ちを読み取っていくようにする。毎時間、まずチロが言った言葉を確かめ、チロはどんな様子でどんな言い方をしているのかを叙述(第一次でサイドラインを引いた言葉)をもとに考えられるようにする。挿絵からもチロの様子や表情を捉え、気持ちの変化に気付けるようにしたい。また、チロになりきって書いたり、様子や行動を動作化したりすることで、場面の様子やチロの気持ちをより具体的に想像できるようにする。チロの思いを書き出しにくい児童へはヘルプカードを用意する。ペア交流の後、全体交流をして自分の考えを広げたり深めたりできるようにしたい。毎時間の終わりには、学習のまとめとして、「なりきりカード」を書くようにする。「なりきりカード」には、その場面のチロの会話文が書かれてあり、自分が読みたい会話文から「声の大きさメーター」や「読む速さメーター」に印をつけ、どんな風に読みたいか、音読の工夫を自由記述させる。それをもとに音読の練習をして、チロになりきれるようにしたい。

本時では、「だいすき」と「だあいすき」、「ありがとう」と「あ、り、が、と、う」の言い方を比較することでチロの気持ちに迫らせたい。

第三次では、第二次で書き溜め、音読練習してきたことを生かして、まずはクラスの友達に、そして６年生に向けて「チロごっこ発表会」をする。学習してきた3つの場面から好きな場面を選んで「チロごっこカード」を書き、それをもとにさらに音読練習を繰り返すようにする。「チロごっこカード」には、「なりきりカード」に書いたことに加え、なぜその場面を選んだのか、会話文以外の地の文の読み方の工夫についても書けるようにしたい。同じ場面を選んだ児童同士で聞き合い、アドバイスし合う場も設定して、よりチロになりきれるようにする。なりきって音読する楽しさや面白さを味わい、自信を持って「チロごっこ」ができるように支援していきたい。単元最後の音読もタブレットで録音し、初めの読みと聞き比べ、成長したことを実感できるようにしたい。

9.指導と評価の計画（全9時間）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
一	1	○学習の見通しを持つ。 ○範読を聞き、はじめの感想を伝え合う。	・「おとうとねずみチロ」シリーズのお話の中から、指導者が好きな場面を選んで、「チロごっこカード」を提示しながら音読する。 ・チロになりきって音読する「チロごっこ」を友達や６年生に聞いてもらうというめあてを持って教材文を読んでいくことを知らせる。 ・扉絵や挿絵から物語の内容を想像することで、物語に興味をもつことができるようにする。 ・誰がどのようなことをしたのかを考えながら、範読を聞かせる。 ・感想を表す言葉を例示し、感想を伝えやすいよう支援する。	
	2	○物語の大体を捉える。 ○場面分けをする。	・挿絵を並び替えて出来事の順序を確かめたり、言葉の意味を確かめたりすることができるようにする。 ・場所の移動や時間の経過による場面の分け方を確かめる。	
	3	○チロの様子や気持ちが分かる言葉にサイドラインを引く。 ○はじめの音読をタブレットで録音する。	・チロの様子や気持ちが分かる言葉を見つけるためには、「チロは、」に続く地の文を手掛かりにすればよいことを指導する。 ・チロの言った言葉には㋒を書き込ませる。 ・好きな場面を選び、最初の読みが記録できるように、タブレットに録音する。	◆［知識・技能①］ **教科書** ・チロが言ったこと、チロの様子や気持ちを表す言葉を見付けて印を付けることができているかの確認
二	4	○手紙が届いたときのチロの様子や思いを想像し、音読の工夫を考える。	・三枚の挿絵を基に、チロの様子・表情を捉え気持ちの変化に気づくことができるようにする。 ・「そうだったらどうしよう。」と言ったチロの思いをノートに書き、チロの不安や心配な様子を想像することができるようにする。 ・学習を振り返り、「なりきりカード」に音読の工夫を書かせ、書き終わったら音読の練習をするよう促す。	
	5	○おばあちゃんに声を届けるチロの様子や思いを想像	・「どんどん」や「たにをはさんで」「ずっとむこうがわ」から、おばあちゃんの家が遠くにあることをつかめるようにする。	

		し、音読の工夫を考える。	・チロがなぜ丘のてっぺんの木に立ったのかを考えることで、おばあちゃんに声を届けたいチロの気持ちを捉えることができるようにする。 ・「うれしがってとびはねる」「声をはりあげて」などを動作化したり、チロの思いを書いたりして、チロの喜んでいる様子を想像できるようにする。 ・「ぼくにもチョッキ、あんでね」で、なぜじっと耳を澄ましていたのかも考えられるようにする。 ・学習を振り返り、「なりきりカード」に音読の工夫を書かせ、書き終わったら音読の練習をするよう促す。	
	6 本 時	○チョッキが届いたチロの様子や思いを想像し、音読の工夫を考える。	・「だあいすき」と「だいすき」の違いに着目したり、動作化したりすることで、チョッキへの思いを確かめることができるようにする。 ・「ありがとう」「あ、り、が、と、う」の言い方の違いを叙述を基に考えることで、絶対にお礼を伝えたいというチロの思いに気づけるようにする。 ・チロになっておばあちゃんに伝えたい思いを書かせる。 ・学習を振り返り、「なりきりカード」に音読の工夫を書かせ、書き終わったら音読の練習をするよう促す。	**◆［思考・判断・表現①］** **<u>観察・ノート・「なりきりカード」</u>** ・チロが言ったり、したりしたことの叙述を基に、チロの様子や思いを想像したり、ふさわしい読み方を考え、「なりきりカード」に書いたりすることができているかの確認
三	7 8	○声に出して読みたい場面を選び、「チロごっこカード」を書く。 ○音読の練習をする。	・「チロごっこカード」には、なぜその場面を選んだのかの理由、「なりきりカード」に付け足したい音読の工夫、さらに地の文で工夫したいところなどを書くように指示する。 ・「チロごっこカード」を基に、音読の練習をさせる。その際、同じ場面を選んだ友達と聞き合ったりアドバイスし合ったりできるようにする。	**◆［思考・判断・表現②］** **<u>観察・ノート・「チロごっこカード」</u>** ・今までの学習を生かして好きな場面を選んでチロの様子を伝えられているかの確認
	9	○「チロごっこ発表会」をする。 ○振り返りを行う。	・「チロごっこ発表会」での読みを録音し、単元の初めに読んだ音読と比較することで、成長を自分で感じたり音読の楽しさを味わったりできるようにする。 ・モジュールの時間にペアの6年生に音読をし、感想をもらうことで自信につなげられるようにする。	**◆［主体的に学習に取り組む態度①］** **<u>観察・ノート</u>** ・進んでチロの様子が伝わるような読み方を考えながら音読しようとしているかの確認

［知識・技能①］教科書・ノート・タブレット

「おおむね満足できる」状況（B）評価

・チロが言ったこと、したことなどを表す言葉や文を見付けて印を付け、その場面のチロの様子を想像して「声の大きさ」「速さ」「強さ」などをノートに書いたことを基に、チロの様子が伝わるように気を付けながら音読することができている。

「努力を要する」状況（C）への手立て

・チロが言ったこと、したことなどを表す言葉や文を見付けて線を引くことができているかを確認し、線を引くことができていない場合は、「チロは、」から始まる文を探すとよいことを助言する。

・文章を音読することに困難がある学習者については、場面全体を音読することにこだわらず、読む分量を本人と相談するようにする。

・「このように読みたい」という考えはもっているが、それが実際の音読に反映されなかった場合（例えば「おばあちゃんに必ずお願いを伝えたいので、一番大きな声で読みたい」という考えはもっていたが、人前で音読することが恥ずかしいために、それほど大きな声で読むことができなかった場合）には、タブレットを活用して一人で音読をしている場面から評価したり、どう読みたいかの考えと理由がしっかりと書けていることをもって評価したりするようにする。

［思考・判断・表現①］観察・ノート・「なりきりカード」

「おおむね満足できる」状況（B）評価

・チロが言ったり、したりしたことの叙述を基に、チロの様子や思いを想像したり、ふさわしい読み方（声の大きさや速さ、表情など）を考え、「なりきりカード」に書いたりすることができている。

「努力を要する」状況（C）への手立て

・その場面の挿絵を示して表情や動作を真似てみるように促したり、本文の叙述を動作化してみるように促したりすることで、チロの様子を読み取ったり、思いを想像したりすることができるようにする。

・心内語については、書き出しや文末の文型を示したり、短い言葉で表現してもよいと伝えたりすることで、書くことに抵抗を感じないようにする。

・叙述に基づいてどのような声で読むかを考えることが難しい場合には、個別に声をかけ、例えば「怒っているときに、自分ならばどんな言い方をするか」など、自分自身と重ねながら考えることができるように促す。

［思考・判断・表現②］観察・ノート・「チロごっこカード」

「おおむね満足できる」状況（B）評価

・「チロごっこ発表会」で、好きな場面を選んでチロの様子が伝わるように気を付けながら音読し、なぜその場面を選んだのかを伝え合ったり、友達の読み方や考えのよいところを見付けたりすることができている。

「努力を要する」状況（C）への手立て

・なぜその場面を選んだのかを言語化しにくい場合には、個別に声をかけ、やりとりを通じて出てきた学習者の言葉を、指導者が「～だから選んだということだね。」と確認することによって支援とする。

・友達の読み方や考えのよいところを表現しにくい場合には、文型を掲示したり、ヒントカードを示したりすることによって支援とする。

［主体的に学習に取り組む態度①］観察・ノート

「おおむね満足できる」状況（B）評価

・進んで、チロの様子が分かる言葉や文を見付け、学習の見通しをもって、お話の好きな場面を選び、チロの様子が伝わるような読み方を考えながら音読しようとしている。

「努力を要する」状況（C）への手立て

・文字や文を書くこと、人前で音読をすることなど、学習者によって支援を要するであろう活動の場面を個別に想定し、声をかけることによって進捗を把握し、必要に応じて支援を行う。

・自らの学びを客観視できるような「振り返り」の書き方の文型を例示する。

10　本時の学習

（1）本時の目標（6／9）

おばあちゃんにチョッキをもらったチロの様子や思いを想像し、読み方の工夫を考えることができる。

（2）本時の展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1.本時の課題をつかむ。	・チョッキをもらったチロの様子や思いを想像して、音読の工夫を考えるというめあてを確認する。 めチョッキをもらったチロになってよもう	
2. 学習場面を音読する。 （第3・4場面）	・チロの言ったこと、様子がわかる言葉を確かめながら音読するよう助言する。	
3. チロの様子を思い浮かべながら、おばあちゃんへの思いを考える。	・チロになりきって声に出して読むために、チロの言ったことを確認する。 ① 「あ、しましまだ。だあいすき。」 ② 「おばあちゃあん、ぼくはチロだよう。しましまのチョッキ、ありがとう。」 ③ 「あ、り、が、と、う。」 ・①では、「だあいすき」と「だいすき」の違いに着目し、動作化してチョッキへの嬉しい思いを確かめることができるようにする。 ・②③では、チロの様子を表す叙述から「ありがとう」の言い方の違いを考え、2回お礼を言ったチロの思いに迫ることができるようにする。 ・「あ、り、が、と、う。」に込められたおばあちゃんへの思いをチロになりきって書くことができるようにする。 ・書き出しにくい児童には、「ヘルプカード」を準備する。 ・自分の考えを書くことができたら、読む練習をして、近くの友達とペア交流を始める。	◆［思考・判断・表現①］ **観察・ノート・「なりきりカード」** ・チロが言ったり、したりしたことの叙述を基に、チロの様子や思いを想像し、ふさわしい読み方を考え、「なりきりカード」に書くことができている。
4. 音読の工夫を考え、「なりきりカード」に書く。	・今日の学習を振り返り、3つの台詞の中から一つ選んで、どんな声で、どんなふうに読みたいかなどを「なりきりカード」に書く。書き終わったら二つ目、三つ目と考えるようにし、音読の練習をするよう指示する。 ・チロになって楽しんで音読できるようにする。	
5. 本時の学習を振り返る。	・友だちに自分の考えを伝えることができたか、友だちの考えを聞いて自分の考えを広げることができたか、楽しくチロになりきることができたかを振り返ることができるようにする。	

１１.板書計画

おとうとねずみチロ

もりやま　みやこ

め チョッキをもらったチロになってよもう

P.７７
挿絵

うれしい
大すきすぎる

①
「あ、しましまだ。だあいすき。」

さっそくチョッキをきる
かけのぼる
早くつたえたい。いそいで

②
「おばあちゃん、ぼくはチロだよう。しましまのチョッキ、ありがとう。」

大ごえでさけぶ

「あ、り、が、と、う。」

きえるのをまって
もう一ど　ゆっくり
おれい

つたえたい

・ぼくのこえ、とどいてた。
・ぼくのことをおぼえていてくれた。
・赤と青のしましまにしてくれた。
・大すきないろだ。
・大せつにするね。
・おばあちゃん大すき。

P.７８
挿絵